

日本専門医機構 承認
日本医学放射線学会 認定

放射線科領域 モデル専門研修プログラム

基幹施設：岡山大学病院放射線科

連携施設 1：岡山医療センター

連携施設 2：岡山画像診断センター

連携施設 3：岡山旭東病院

連携施設 4：岡山済生会総合病院

連携施設 5：岡山市立市民病院

連携施設 6：岡山赤十字病院

連携施設 7：岡山ろうさい病院

連携施設 8：川崎医科大学総合医療センター

連携施設 9：倉敷成人病センター

連携施設 10：津山中央病院

連携施設 11：福山医療センター

連携施設 12：中国中央病院

連携施設 13：呉共済病院

連携施設 14：岩国医療センター

連携施設 15：姫路聖マリア病院

連携施設 16：香川県立中央病院

連携施設 17：三豊総合病院

連携施設 18：放射線第一病院

連携施設 19：住友別子病院

連携施設 20：高知医療センター

連携施設 21：姫路赤十字病院

連携施設 22：福山市民病院

連携施設 23：近森病院

承認 2015.12.14

修正 2017. 5. 22

2022 年度岡山大学病院 放射線科専門研修プログラム

(放射線科領域専門研修プログラム新整備基準に準拠)

目 次

1.	放射線科領域専門研修の教育方針.....	1
2.	研修体制	2
3.	専門研修施設群における研修分担.....	10
4.	募集新規専攻医数.....	13
5.	専門研修応募者の選考方法	14
6.	研修内容	15
7.	研修方略	20
8.	研修実績の記録	32
9.	研修の評価.....	33
10.	研修の休止・中断、異動	35
11.	労働環境、労働安全、勤務条件	36

1. 放射線科領域専門研修の教育方針

整備基準 1,2,3

実臨床における放射線科の役割は、X線撮影、超音波検査、CT、磁気共鳴検査（MRI）および核医学検査などを利用する画像診断、画像診断を応用した低侵襲性治療（インターベンショナル・ラジオロジー：IVR）、および放射線を使用して種々の疾患の放射線治療を行うことにあります。

放射線科領域専門制度は、放射線診療・放射線医学の向上発展に資し、医療および保健衛生を向上させ、かつ放射線を安全に管理し、放射線に関する専門家として社会に対して適切に対応し、もって国民の福祉に寄与する、優れた放射線科領域の専門医を育成する制度であることを基本理念としています。そして、放射線診断専門医または放射線治療専門医の育成の前段階として、放射線診断専門医および放射線治療専門医のいずれにも求められる放射線科全般に及ぶ知識と経験を一定レベル以上に有する「放射線科専門医」を育成することを目的としています。

放射線科専門医の使命は、画像診断（X線撮影、超音波検査、CT、MRI、核医学検査等）、IVR、放射性同位元素（RI）内用療法を含む放射線治療の知識と経験を有し、放射線障害の防止に努めつつ、安全で質の高い放射線診療を提供することにあります。

日本医学放射線学会が認定し日本専門医機構が承認した放射線科専門研修プログラム新整備基準では、放射線科専門医制度の理念のもと、放射線科専門医としての使命を果たす人材育成を目的として専門研修の到達目標および経験目標を定めています。本研修プログラムでは、研修施設群内における実地診療によって専門研修の到達目標および経験目標を十分に達成できる研修体制の構築に努めていますが、実地診療のみでは経験が不足する一部の研修については、日本専門医機構が認める講習会（ハンズオン・トレーニング等）及び e-learning の活用等によって、その研修を補完します。

2022 年度岡山大学病院放射線科専門研修プログラムは上記の新整備基準に従い、3 年以上の専門研修により、放射線科領域における幅広い知識と錬磨された技能、ならびに医師としての高い倫理性、コミュニケーション能力およびプロフェSSIONナリズムを備えた放射線科専門医をめざし、放射線科専攻医（以下、専攻医）を教育します。

2. 研修体制

整備基準 26,27,36

本プログラムは、岡山大学病院放射線科を専門研修基幹施設として、岡山医療センター、岡山旭東病院、岡山済生会総合病院、岡山市立市民病院、岡山赤十字病院、岡山ろうさい病院、川崎医科大学総合医療センター、倉敷成人病センター、津山中央病院、福山医療センター、中国中央病院、呉共済病院、岩国医療センター、姫路聖マリア病院、香川県立中央病院、三豊総合病院、放射線第一病院、住友別子病院、高知医療センター、姫路赤十字病院、福山市民病院、近森病院を専門研修連携施設、岡山画像診断センターを特殊専門修練機関として加えた専門研修施設群を統括する専門研修プログラムです。

専門研修プログラム統括責任者は、専門研修基幹施設の責任者（部長、科長など）があたり、プログラム全体について責任を持ちます。専門研修連携施設の指導管理責任者は、各施設の責任者（部長、科長など）があたり、専攻医の研修ならびに労働環境・条件など全般にわたる責任を負います。専門研修プログラム連携施設担当者は、専門研修プログラム管理委員会における各施設の代表者です。指導にあたる専門研修指導医は、放射線科領域における十分な診療経験と教育および指導能力を有する医師であり、日本医学放射線学会認定の研修指導者資格を取得しています。1名の指導医が指導可能な専攻医数は、総計3名以内です。

1) 専門研修施設群

整備基準 23,24,31,35

専門研修基幹施設は、専門研修プログラムを管理し、本プログラムに参加する専攻医ならびに専門研修連携施設および専門研修関連施設を統括します。専門研修連携施設は、専門研修基幹施設が定めた本プログラムに基づいて専攻医に専門研修を提供します。専門研修関連施設は、専門研修基幹施設と専門研修連携施設では経験しきれない研修項目を補完します。

なお、専門研修基幹施設は日本医学放射線学会認定総合修練機関、専門研修連携施設は日本医学放射線学会認定総合修練機関、修練機関または特殊修練機関として認定されており、それぞれ放射線科専門研修プログラム新整備基準の専門研修基幹施設、専門研修連携施設の認定基準を満たしています。専門研修関連施設は非認定施設ですが、専門研修基幹施設である岡山大学病院放射線科の責任のもとで専門研修を委嘱した施設で、研修内容は超音波検査、消化管造影、IVR等に限られます。

(1) 専門研修基幹施設：岡山大学病院放射線科

日本医学放射線学会認定総合修練機関

専門研修プログラム統括責任者（指導医）：平木隆夫（放射線科長）

専門研修指導責任者（指導医）：松井裕輔

専門研修指導医：生口俊浩

専門研修指導医：児島克英

専門研修指導医：吉尾浩太郎

専門研修指導医：富田晃司

専門研修指導医：宇賀麻由

専門研修指導医：井原弘貴

専門研修指導医：田中高志

専門研修指導医：丸川洋平

専門研修指導医：蟹江悠一郎

専門研修指導医：槇本怜子

専門研修指導医：杉山聡一

専門研修指導医：郷原英夫

専門研修指導医：櫻井 淳

専門研修指導医：大川七子

(2) 専門研修連携施設：岡山医療センター放射線科

日本医学放射線学会認定修練機関

指導管理責任者（指導医）：新屋晴孝（放射線科医長）

専門研修プログラム連携施設担当者（指導医）：向井 敬

専門研修指導医：丸中三菜子

専門研修指導医：岸亮太郎

(3) 専門研修連携施設：岡山画像診断センター

日本医学放射線学会認定特殊修練機関

指導管理責任者：加地充昌（放射線科部長）

専門研修プログラム連携施設担当者（指導医）：清 哲朗

専門研修指導医：多田明博

(4) 専門研修連携施設：岡山旭東病院放射線科

日本医学放射線学会認定修練機関

指導管理責任者（指導医）：奥村能啓（放射線科部長）

専門研修プログラム連携施設担当者（指導医）：奥村能啓(兼任)

専門研修指導医：入澤 實

専門研修指導医：大西剛直

(5) 専門研修連携施設：岡山済生会総合病院放射線科

日本医学放射線学会認定総合修練機関

指導管理責任者（指導医）：戸上 泉（副院長）

専門研修プログラム連携施設担当者（指導医）：安井光太郎（診療部長）

専門研修指導医：石原節子

専門研修指導医：守都常晴

専門研修指導医：佐伯基次

(6) 専門研修連携施設：岡山市立市民病院放射線科

日本医学放射線学会認定修練機関

指導管理責任者（指導医）：上田裕之（放射線診療部長）

専門研修プログラム連携施設担当者（指導医）：芝本健太郎

専門研修指導医：羽原理佐

専門研修指導医：檜垣文代

(7) 専門研修連携施設：岡山赤十字病院放射線科

日本医学放射線学会認定修練機関

指導管理責任者（指導医）：橋村伸二（第二放射線科部長）

専門研修プログラム連携施設担当者（指導医）：姫井健吾（放射線治療科部長）

専門研修指導医：森本真美

専門研修指導医：石井裕朗

(8) 専門研修連携施設：岡山ろうさい病院放射線科

日本医学放射線学会認定修練機関

指導管理責任者（指導医）：山本博道（放射線科部長、副院長）

専門研修プログラム連携施設担当者（指導医）：本田 理

専門研修指導医：乗金精一郎

(9) 専門研修連携施設：川崎医科大学総合医療センター放射線科

日本医学放射線学会認定修練機関

指導管理責任者（指導医）：加藤勝也（放射線科部長）

専門研修プログラム連携施設担当者（指導医）：加藤勝也(兼任)

専門研修指導医：金澤 右

専門研修指導医：林 隆史

専門研修指導医：藤原寛康
専門研修指導医：荻野裕香
専門研修指導医：福原由子
専門研修指導医：坪井有加

(10) 専門研修連携施設：倉敷成人病センター放射線科、放射線治療科

日本医学放射線学会認定修練機関
指導管理責任者（指導医）：浅川 徹（放射線部長）
専門研修プログラム連携施設担当者（指導医）：福原隆一郎
専門研修指導医：浅川真理

(11) 専門研修連携施設：津山中央病院放射線科

日本医学放射線学会認定修練機関
指導管理責任者（指導医）：藤島 護（放射線部長）
専門研修プログラム連携施設担当者（指導医）：脇 隆博

(12) 専門研修連携施設：福山医療センター放射線診断科、放射線治療科

日本医学放射線学会認定修練機関
指導管理責任者（指導医）：道家哲哉（放射線診断科医長）
専門研修プログラム連携施設担当者（指導医）：吉村孝一（放射線診断科医長）
専門研修指導医：中川富夫
専門研修指導医：兼安祐子

(13) 専門研修連携施設：中国中央病院放射線科

日本医学放射線学会認定修練機関
指導管理責任者（指導医）：安藤由智（放射線診断科部長）
専門研修プログラム連携施設担当者（指導医）：安藤由智（兼任）
専門研修指導医：檜本和樹

(14) 専門研修連携施設：呉共済病院放射線科

日本医学放射線学会認定修練機関
指導管理責任者（指導医）：水戸川芳巳（放射線部長）
専門研修プログラム連携施設担当者（指導医）：小柳由季

(15) 専門研修連携施設：岩国医療センター放射線科

日本医学放射線学会認定修練機関

指導管理責任者（指導医）：矢吹隆行（放射線部長）
専門研修プログラム連携施設担当者（指導医）：矢吹隆行（兼任）
専門研修指導医：尾形 毅
専門研修指導医：和田裕子

(16) 専門研修連携施設：姫路聖マリア病院放射線科

日本医学放射線学会認定修練機関
指導管理責任者（指導医）：藤江俊司（放射線科部長）
専門研修プログラム連携施設担当者（指導医）：大前健一（IVR 部長）
専門研修指導医：淀谷光子

(17) 専門研修連携施設：香川県立中央病院放射線科

日本医学放射線学会認定総合修練機関
指導管理責任者（指導医）：赤木史郎（放射線科部長、診療科長）
専門研修プログラム連携施設担当者（指導医）：塩出 壮（放射線科部長）
専門研修指導医：白岩美咲
専門研修指導医：片山敬久
専門研修指導医：田尻展久

(18) 専門研修連携施設：三豊総合病院放射線診断・IVR 科、放射線治療科

日本医学放射線学会認定修練機関
指導管理責任者（指導医）：黒川浩典（放射線診断科部長）
専門研修プログラム連携施設担当者（指導医）：黒川浩典（兼任）
専門研修指導医：中村哲也
専門研修指導医：兒島聡一
専門研修指導医：山路早苗

(19) 専門研修連携施設：放射線第一病院放射線科

日本医学放射線学会認定修練機関
指導管理責任者（指導医）：木本眞（病院長）
専門研修プログラム連携施設担当者（指導医）：山本泰宏（放射線科医長）
専門研修指導医：松田かおり
専門研修指導医：沼 哲也

(20) 専門研修連携施設：住友別子病院放射線 IVR 科、放射線診断科

日本医学放射線学会認定修練機関
指導管理責任者（指導医）：加藤 勤（副院長）

専門研修プログラム連携施設担当者（指導医）：井石龍比古（放射線 IVR 科長）

専門研修指導医：内ノ村聡

専門研修指導医：細川一枝

(21) 専門研修連携施設：高知医療センター放射線科・放射線療法科

日本医学放射線学会認定総合修練機関

指導管理責任者（指導医）：森田莊二郎（副院長）

専門研修プログラム連携施設担当者（指導医）：秦 康博（放射線療法科科長）

専門研修指導医：松坂 聡

専門研修指導医：西岡明人

専門研修指導医：野田能宏

専門研修指導医：岡村 淳

(22) 専門研修連携施設：姫路赤十字病院放射線科

日本医学放射線学会認定修練機関

指導管理責任者（指導医）：三森天人（放射線診断科部長）

専門研修プログラム連携施設担当者（指導医）：武本充広（第 1 放射線治療科部長）

専門研修指導医：河原道子

専門研修指導医：井上大作

専門研修指導医：正岡佳久

(23) 専門研修連携施設：福山市民病院放射線診断・IVR 科、放射線治療科

日本医学放射線学会認定修練機関

専門研修プログラム統括責任者（指導医）：井田健太郎（統括科長）

専門研修指導責任者（指導医）：兵頭 剛（科長）

専門研修指導医：稲井良太

専門研修指導医：浅野雄大

専門研修指導医：小林 満

(24) 専門研修連携施設：近森病院放射線科

日本医学放射線学会認定修練機関

専門研修プログラム統括責任者（指導医）：宮崎延裕（部長）

専門研修指導責任者（指導医）：宮崎延裕（兼任）

専門研修指導医：清水和人

専門研修指導医：田所導子

専門研修指導医：細田幸司

2) 専門研修プログラム管理委員会および専門研修プログラム連携施設 研修管理委員会

整備基準 34,37,38,39

(1) 放射線科領域専門研修プログラム管理委員会

専門研修基幹施設である岡山大学病院には、放射線科領域専門研修プログラム管理委員会（以下、専門研修プログラム管理委員会）を設置しています。専門研修プログラム管理委員会は、専門研修プログラム統括責任者、専門研修プログラム連携施設担当者、専門研修指導責任者等で構成され、必要に応じて専門研修指導医やメディカルスタッフ（診療放射線技師や看護師等）等に意見を求めます。

専門研修プログラム管理委員会では、専攻医と専門研修プログラム全般を統括的に管理し、専門研修プログラムの継続的改良を行います。専攻医および専門研修指導医から提出される評価報告書にもとづき、専攻医および専門研修指導医に対して必要な助言を行います。また、専門研修プログラム管理委員会における評価に基づいて、専門研修プログラム統括責任者が研修修了の判定を行います。

(2) 放射線科領域専門研修プログラム連携施設研修管理委員会

各専門研修連携施設には、専門研修プログラム管理委員会と連携する放射線科領域専門研修プログラム連携施設研修管理委員会（以下、連携施設研修管理委員会）を設置しています。連携施設研修管理委員会は、指導管理責任者、専門研修指導医等で構成され、必要に応じてメディカルスタッフ（診療放射線技師や看護師等）等に意見を求めます。ただし、専門研修指導医が一人の専門研修連携施設では連携施設研修管理委員会の設置が不要のため、当該指導医が専門研修プログラム連携施設担当者も併任しています。

連携施設研修管理委員会では、専門研修連携施設における専攻医の研修を管理します。連携施設研修管理委員会における評価に基づいて、指導管理責任者は専攻医の研修評価を専門研修プログラム管理委員会に報告します。また、専門研修プログラム管理委員会で改良された専門研修プログラムや専門研修体制は、連携施設研修管理委員会を通じて専門研修連携施設に伝達されます。

3) 前年度(2020 年度)診療実績

整備基準 31

施設名	岡山大学病院 放射線科	岡山医療セン ター放射線科	岡山画像診 断センター	岡山旭東 病院放射 線科	岡山済生 会総合病 院放射線 科	岡山市立 市民病院 放射線科	岡山赤十字 病院放射線 科
役 割	基幹	連携	連携	連携	連携	連携	連携
日本医学放 射線学会認 定機関	総合修練	修練	特殊修練	修練	総合修練	修練	修練
指導医数 *	16	2	2	1.5	2.5	2	2
CT 検査件 数 **	34,716	11,508	2,820	5,014	15,071	22,603	11,814
IVR 施行件 数 **	990	105	0	0	167	160	51
放射線治療 患者数 ***	630	100	0	128	113	0	117
施設名	岡山ろうさい 病院放射線科	川崎医科大学 総合医療セン ター放射線科	倉敷成人病 センター放 射線科、放 射線治療科	津山中央 病院放射 線科	福山医療 センター 放射線診 断科、放 射線治療 科	公立学校共 済組合中国 中央病院放 射線科	呉共済病院 放射線科
役 割	連携	連携	連携	連携	連携	連携	連携
日本医学放 射線学会認 定機関	修練	修練	修練	修練	修練	修練	修練
指導医数 *	3	2.3	1.5	2	2	1	2
CT 検査件 数 **	16,784	8,686	6,879	33,967	16,142	14,039	16,847
IVR 施行件 数 **	21	99	82	120	29	96	31
放射線治療 患者数 **	122	100	0	267	337	180	104
施設名	岩国医療セン ター放射線科	姫路聖マリア 病院放射線科	香川県立中 央病院放射 線科	三豊総合 病院放射 線診断・ IVR 科、 放射線治 療科	放射線第 一病院放 射線科	住友別子 病院放射 線 IVR 科、放射 線診断科	高知医療セ ンター放 射線科・放 射線療法科
役 割	連携	連携	連携	連携	連携	連携	連携
日本医学放	修練	修練	総合修練	修練	修練	修練	総合修練

射線学会認定機関							
指導医数 *	3	1.5	2.5	4	4	2	2
CT 検査件数 **	26,123	4,411	14,400	23,479	4855	7,857	6,980
IVR 施行件数 **	122	59	75	245	27	134	314
放射線治療患者数 ***	273	0	90	115	0	68	87
施設名	姫路赤十字病院放射線科	福山市民病院放射線診断・IVR 科、放射線治療科	近森病院放射線科				(合計)
役 割	連携	連携	連携				
日本医学放射線学会認定機関	総合修練	総合修練	修練				
指導医数 *	2.5	2.5	2				67.8
CT 検査件数 **	2,420	2,465	10803.5				320,683
IVR 施行件数 **	25	47	340				3,338
放射線治療患者数 ***	33	50	0				2,914

(指導医数 * = 各施設の指導医数 ÷ その施設で参加するプログラム数)

(CT 検査件数,IVR 施行件数 ** = 複数プログラムに参加する施設では本プログラムに割り当てることができる数)

(放射線治療患者数 *** = 新規治療患者数と再治療患者数との合計で、複数プログラムに参加する施設では本プログラムに割り当てることができる数)

3. 専門研修施設群における研修分担

整備基準 4,5,6,7

専門研修施設群では、研修施設それぞれの特徴を生かし、専門研修カリキュラムに掲げられた目標に則って放射線科領域専門研修を行います。

- 岡山大学病院放射線科では、医学一般の基本的知識技術を習得した後、画像診断法（X 線、超音波、CT、MRI、核医学）、IVR、放射線治療並びに放射線の安全

管理の知識を習得します。さらに医師としての診療能力に加え、教育・研究などの総合力を培います。

- 岡山医療センター放射線科では、急性期疾患、頻繁に関わる疾病の画像診断、IVR 及び放射線治療に適切に対応できる総合的な診療能力を培い、岡山大学病院放射線科の研修を補完します。
- 岡山画像センターでは、CT、MRI、PET の画像検査を専門に行っており、FDG-PET/CT の専門的診断能力を培い岡山大学病院放射線科研修を補完します。
- 岡山旭東病院放射線科では、脳神経、整形外科、内科を主体に急性期疾患、頻繁に関わる疾病の画像診断に加え PET、SPECT 核医学研修を実施し総合的な診療能力を培い、岡山大学病院放射線科の研修を補完します。I V R と放射線治療の研修に関しては、岡山大学病院と連携して行います。
- 岡山済生会総合病院放射線科では、急性期疾患、頻繁に関わる疾病の画像診断、IVR 及び放射線治療に適切に対応できる総合的な診療能力を培い、岡山大学病院放射線科の研修を補完します。消化管 X 線検査および超音波検査の研修に関しては e ラーニングにて補完します。
- 岡山市立市民病院放射線科では、病院として力を入れている救急症例、頻繁に関わる疾病の画像診断、IVR 等に適切に対応できる総合的な診療能力を培い、岡山大学病院放射線科の研修を補完します。放射線治療の研修に関しては岡山大学病院と連携して行います。
- 岡山赤十字病院放射線科では、急性期疾患、悪性腫瘍、頻繁に関わる疾病の画像診断、IVR 及び放射線治療に適切に対応できる総合的な診療能力を培い、岡山大学病院放射線科の研修を補完します。また、超音波検査の研修は e ラーニングにて補完します。
- 岡山ろうさい病院放射線科では、画像診断、核医学、IVR、放射線治療の基本がマスターできるようにし、他の施設ではなかなか経験できない塵肺や石綿肺、中皮腫等の診断治療も経験してもらうことができます。診療放射線技師等コメディカルや他科の医師とも良好な関係が築ける様にも指導し、岡山大学病院放射線科の研修を補完します。超音波の研修は e ラーニングにて補完します。
- 川崎医科大学総合医療センター放射線科では急性期疾患から慢性疾患まで幅広い疾患に対する画像診断（X 線、消化管造影、CT、MRI、核医学）、血管系、非血管系 IVR についての研修が可能です。超音波検査の研修は e ラーニングにて補完します。放射線治療、核医学に関しては岡山大学病院と連携して行います。
- 倉敷成人病センター放射線科、放射線治療科では、急性期疾患、頻繁に関わる疾病の画像診断、IVR に適切に対応できる総合的な診療能力を培い、岡山大学病院放射線科の研修を補完します。放射線治療の研修に関しては岡山大学病院と連携して行います。

- 津山中央病院放射線科では、急性期疾患、頻繁に関わる疾病の画像診断、IVR 及び放射線治療に適切に対応できる総合的な診療能力を培い、岡山大学病院放射線科の研修を補完します。
- 福山医療センター放射線診断科、放射線治療科では、多岐の領域にわたる種々の急性～慢性期疾患・悪性疾患等の画像診断全般、放射線治療に適切に対応できる総合的な診療能力を培い、岡山大学病院放射線科の研修を補完します。超音波検査の研修は e ラーニングにて補完し消化管 X 線検査、I V R の研修に関しては、岡山市立市民病院と連携して行います。
- 公立学校共済組合中国中央病院放射線科では、急性期疾患、悪性疾患、頻繁に関わる疾病の画像診断、IVR 及び放射線治療に適切に対応できる総合的な診療能力を培い、岡山大学病院放射線科の研修を補完します。
- 呉共済病院放射線科では、地域の中核病院として救急疾患をはじめ日常臨床でよく遭遇する疾患に対して総合的に画像診断を研修できます。また、IVR 及び放射線治療の実際を適応から follow まで行い、総合的な臨床能力を培い、岡山大学病院放射線科の研修を補完します。超音波検査の研修は e ラーニングにて補完します。
- 岩国医療センター放射線科では、急性期疾患、頻繁に関わる疾病の画像診断、IVR 及び放射線治療に適切に対応できる総合的な診療能力を培い、岡山大学病院放射線科の研修を補完します。また、超音波検査の研修は e ラーニングにて補完します。
- 姫路聖マリア病院放射線科では、急性期疾患、各種悪性腫瘍、頻繁に関わる疾病の画像診断、IVR に適切に対応できる総合的な診療能力を培い、岡山大学病院放射線科の研修を補完します。核医学と放射線治療の研修に関しては姫路赤十字病院と連携して行います。
- 香川県立中央病院放射線科では、急性期疾患、頻繁に関わる疾病の画像診断、IVR 及び放射線治療に適切に対応できる総合的な診療能力を培い、岡山大学病院放射線科の研修を補完します。
- 三豊総合病院放射線診断・IVR 科、放射線治療科では急性期疾患、頻繁に関わる疾病の画像診断、IVR 及び放射線治療に適切に対応できる総合的な診療能力を培い、岡山大学病院放射線科の研修を補完します。消化管 X 線検査と超音波検査の研修は e ラーニングにて補完します。
- 放射線第一病院放射線科では、急性期疾患、頻繁に関わる疾病の画像診断、IVR に適切に対応できる総合的な診療能力を培い、岡山大学病院放射線科の研修を補完します。核医学および放射線治療の研修に関しては、香川県立中央病院にて行います。

- 住友別子病院放射線 IVR 科、放射線診断科では、地域の中核基幹病院（救急指定病院・地域がん診療連携拠点病院）としての特性を生かした幅広い疾病群を経験させることにより、画像診断、IVR に関する総合的な診療能力の向上を目的とした教育を行い、岡山大学病院放射線科の研修を補完します。放射線治療の研修に関しては、香川県立中央病院にて行います。
- 高知医療センター放射線科・放射線療法科では救命救急センター、地域がん診療連携拠点病院、母子周産期センターを含む診療科の様々な疾患の画像診断、IVR、放射線治療に適切に対応出来る、総合的な放射線診療能力を培い、岡山大学病院放射線科の研修を補充します。また、X 線単純撮影に関しては放射線第一病院と連携し、消化管 X 線検査の研修に関しては e ラーニングにて補完します。
- 姫路赤十字病院放射線科では、医学一般の基本的知識技術を習得した後、画像診断法（X 線、超音波、CT、MRI、核医学）、IVR、放射線治療並びに放射線の安全管理の知識を習得します。さらに医師としての診療能力に加え、教育・研究などの 総合力を培います。
- 福山市民病院放射線診断・IVR 科、放射線治療科では、救急・急性期疾患、頻繁に関わる疾病の画像診断（特に腹部領域）、IVR 及び放射線治療に適切に対応できる総合的な診療能力を培い、岡山大学病院放射線科の研修を補完します。消化管 X 線検査および超音波検査の研修は e ラーニングにて補完します。
- 近森病院放射線科では、救命救急センター・地域医療支援病院として 救急・急性期疾患、頻繁に関わる疾病の画像診断と IVR に適切に対応できる総合的な診療能力を培い、岡山大学放射線科の研修を補完します。

4. 募集新規専攻医数

整備基準 27,28

2022 年度放射線科専攻医募集定員：15 名

直近 5 年間の新規放射線科専攻医採用数：6 名、5 名、4 名、3 名、6 名

< 付記事項 >

放射線科専攻医募集定員は、専門研修施設群の診療実績および専門研修指導医数等の教育資源の規模ならびに地域の診療体制への配慮により、日本医学放射線学会および日本専門医機構が以下のごとく数値上限を設定しています。本プログラムでは、この基準に基づいて募集定員を決定しています。

【専攻医受入数の上限】

専門研修施設群全体としての単年度当たりの放射線科専攻医受け入れ総数は、専門研修

施設群全体の ①専門研修指導医数、②年間 CT 検査件数 / 3000、③年間血管造影・IVR 件数 / 60、および④年間放射線治療件数 / 60 のうち、最も少ない数を上限とします。なお、都市部（東京、神奈川、愛知、大阪、福岡）の都府県に基幹施設がある研修プログラムの場合、原則として、過去の採用実績を基にした専攻医受入数の上限も加わります（過去 5 年の専攻医採用実績の平均値を超えない）。この上限を超えた場合は、年次で調整します。また、都市部の選択に関しては、地域への派遣実績等も考慮して決定されます。

5. 専門研修応募者の選考方法

整備基準 52

岡山大学病院放射線科専門研修プログラム管理委員会は、放射線科専門研修プログラムを岡山大学病院放射線科 website (<https://radiology.hsc.okayama-u.ac.jp/>) に公表し、放射線科専攻医を募集します岡山大学病院放射線科専門研修プログラムへの応募希望者は、プログラム統括責任者宛に所定の「応募申請書」および履歴書等定められた書類を提出してください。専門研修プログラム管理委員会は、書類審査および面接試験により本プログラムの専攻医の採否を決定します。

1) 応募資格

整備基準 1,3

- 初期臨床研修を修了した者、もしくは 2022 年 3 月までに修了見込みの者

なお、2022 年 4 月以降に修了見込みの者については、専門研修プログラム統括責任者までお問い合わせください。また、研修開始の要件として、日本医学放射線学会への入会が求められることを申し添えます。

2) 応募期間

- 2021 年 4 月 1 日～2022 年 1 月 31 日予定

ただし、期間外でも個別に相談に応じます。

3) 提出書類

- 履歴書

申請は岡山大学病院放射線科 radiol●cc.okayama-u.ac.jp（●を@に変更してください）にメールをお送りください。電話での問い合わせ（086-235-7313）でも可能です。

4) 選考方法

書類審査および面接により選考します。試験の日時・場所等は別途メールにてお知らせします。

5) 書類提出先・問い合わせ先

岡山大学病院 放射線科 専門研修プログラム統括責任者 宛

〒700-8558 岡山市北区鹿田町 2-5-1 放射線医学教室

電話：086-235-7313

E-mail：radiol●cc.okayama-u.ac.jp（●を@に変更してください）

URL：https://radiology.hsc.okayama-u.ac.jp/

6) その他

その他、研修に関する相談、質問など、何でもお気軽に問い合わせ下さい。

6. 研修内容

「放射線科専門研修カリキュラム」は、放射線科専門医の使命を果たすことができる、放射線科全般に及ぶ知識と経験を一定レベル以上に有する専門医を育成するために策定されており、「到達目標」および「経験目標」から構成されます。

到達目標 A には修得すべき専門知識の範囲とレベル、到達目標 B には画像診断、IVR、放射線治療などの技能に関して求められる範囲とレベルが示されています。放射線科領域では知識と技能は重複するところが多く明確な区別ができない項目もありますが、カリキュラムでは認識、理解、知見に関わることは便宜上到達目標 A「専門知識」に分類し、技術的な能力に深く関わるもののみに到達目標 B「専門技能」に分類されています。到達目標 C には医療倫理、医療安全、コミュニケーション能力など、到達目標 D には生涯学習や研究活動などについて修得すべき事項が示されています。知識や技能の要求度はそれぞれの項目において、「知る、説明できる、実践できる」などの述語により示されています。

経験目標 A には画像診断に関して経験することが要求される疾患・病態等、経験目標 B には知識・技能を修得するために必要とされる検査モダリティ、手技ごとの実施数あるいは読影数、経験目標 C には治療等（IVR および放射線治療）に関して経験することが要求される手技・治療法と経験数が示されています。

到達目標および経験目標の概略は以下の通りですが、詳細については「放射線科専門研修カリキュラム」を参照してください。

1) 到達目標

(1) 専門知識

整備基準 4

専攻医は、医療の質と安全管理ならびに画像診断法（X線撮影、超音波検査、CT、MRI、核医学検査）、IVR および放射線治療の知識を修得する必要があります。

A. 医療の質と安全管理

- ・ 放射線診療に必要な放射線の物理作用ならびに生物作用を説明できる。
- ・ 放射線防護の理念と目標について正しく説明できる。
- ・ 放射線診療において医療の質と安全を確保する対応方法を説明できる。

B. 画像診断

- ・ 画像診断の各モダリティ（X線撮影、超音波検査、CT、MRI、核医学検査）の基本的な原理・特徴を説明できる。
- ・ 画像診断と関連する基本的な解剖、発生、生理を説明できる。
- ・ 代表的疾患について画像所見を説明できる。

C. IVR

- ・ 代表的な血管系・非血管系 IVR について、その意義と適応、手技の概要、治療成績、合併症を説明できる。

D. 放射線治療

- ・ 放射線治療（外照射、密封小線源治療、R I 内用療法）などの特徴と実際を説明できる。
- ・ がん集学的治療に占める放射線治療の役割を理解し、手術ならびに化学療法との併用療法について理論的根拠を説明できる。

(2) 専門技能

整備基準 5

専攻医は放射線障害の防止に努めつつ、画像診断の各検査法と診断ならびに IVR および放射線治療に携わり、安全で質の高い医療を提供する専門技能を修得する必要があります。

A. 画像診断

- ・ 各種画像診断法のなかから、個々の患者に最適な検査法を自分自身で指示できる。
- ・ 撮像された画像について客観的に適切な用語で所見を記載し、検査目的に即した内容でレポートを指導医の下で作成できる。

B. IVR

- ・ 血管系 IVR について基本的な手技（穿刺、基本的カテーテル操作、圧迫止血等）を指導医の下で実践できる。
- ・ 非血管系 IVR について適切なガイド（誘導画像検査法）を自分自身で選択できる。

C. 放射線治療

- ・ 各疾患に対する適切な放射線治療法について理解し、標準的な治療計画を指導医の下で立案できる。

D. 医療の質と安全管理

- ・ 放射線診療において医療の質と安全を確保する対応策を指導医の下で立案できる。
- ・ 放射線診療の質の向上のために必要な方策を指導医の下で実行できる。

(3) 医師としての倫理性、社会性など

整備基準 7

放射線科領域専門医としての臨床能力には、医師としての基本的診療能力と放射線科医としての専門的知識・技術が含まれ、これらを身につける必要があります。

- ・ 患者への接し方に配慮し、患者や医療関係者とのコミュニケーション能力を磨くこと
- ・ 誠実に、自律的に医師としての責務を果たし、プロフェッショナルリストとして周囲から信頼されること
- ・ 診療記録の的確な記載ができること
- ・ 患者情報の適切な管理ができること
- ・ 医の倫理、医療安全等に配慮し、患者中心の医療を実践できること
- ・ 臨床から学ぶことを通して基礎医学・臨床医学の知識と技術を修得すること
- ・ 診療放射線技師、看護師、医学物理士、事務職員と協働しチーム医療を実践できること
- ・ 後進を的確に指導するための能力を修得すること

(4) 学問的姿勢

整備基準 6,30

科学的思考、課題解決型学習、生涯学習、研究などの技能と態度の修得に努め、自己学習の習慣を身につける必要があります。

- ・ 科学的思考、課題解決型学習、生涯学習、研究などの技能と態度の修得に努める。
- ・ 医学、医療の進歩に追随すべく常に自己学習し、新しい知識の修得に努める。

- ・ 将来の医療の発展のために基礎研究・臨床研究にも積極的に関わり、リサーチマインドを滋養する。
- ・ 常に自分自身の診療内容をチェックし、関連する基礎医学・臨床医学情報を探索し、EBMの実践に努める。
- ・ 学術集会に積極的に参加して自己学習に努め、自らの研究成果を発表し論文を執筆する。

2) 経験目標

(1) 経験すべき疾患・病態

整備基準 8

専攻医は「専門研修カリキュラム」に沿って該当する疾患・病態を経験・学習する必要がありますが、研修内容に偏りがないようにするために幅広い領域の疾患・病態を経験することが求められます。経験とは、「第一読影者として読影レポートを作成し、その後専門研修指導医の確認を経てレポートが発行された読影」、「専門研修指導医とともに実施し、術者もしくは第一助手を務めた検査・手技・IVR」、および「第一立案者として治療計画を立案し、その後指導医の確認を受けた放射線治療」のことです。一人の患者において複数の疾患を対象に画像診断や治療を行った場合には、それぞれの経験症例として申請することができます。専門研修カリキュラムに定める 11 領域 80 疾患群 100 症例のうち、専門研修が満了するまでに 90%以上の症例を経験することを目標とします。

(2) 経験すべき検査・読影

整備基準 9,15

専攻医は放射線科専門医としての知識・技能を習得するために、一定数以上の読影レポート作成および検査の実施経験を積む必要があります。経験とは、「第一読影者として読影レポートを作成し、その後専門研修指導医の確認を経てレポートが発行された読影」ならびに「専門研修指導医とともに実施し、術者もしくは第一助手を務めた検査・手技」のことです。一人の患者において複数の疾患を対象に読影・検査・手技を行った場合には、それぞれの経験症例として申請することができます。モダリティ・手技ごとに下記の件数の読影もしくは手技を経験することが求められます。

モダリティ・手技	目標症例数
X線単純撮影	400 例
消化管 X線検査	60 例
超音波検査	120 例
CT	600 例

MRI	300 例
核医学検査	50 例

<補足>

- ・ 研修が不足する可能性のある超音波検査や消化管造影は、専門研修基幹施設の責任の下に専門研修関連施設での研修で補完します。また、実地診療によって経験目標を達成できない場合は、日本専門医機構が認める講習会（ハンズオン・トレーニング等）及び e-learning の活用等によって、不足する研修を補完します。

(3) 経験すべき治療法

整備基準 10,15

専攻医は下記の件数の IVR ならびに放射線治療を経験することが求められます。IVR における経験とは、「専門研修指導医とともに実施し、術者もしくは第一助手を務めた IVR」のことです。また、放射線治療における経験とは、「第一立案者として治療計画を立案し、その後指導医の確認を受けた治療」のことです。一人の患者において複数の疾患を対象に治療を行った場合には、それぞれの経験症例として申請することができます。手技・治療内容によりそれぞれ目標の症例数が設定されているので留意してください。

治療法	経験症例数	内訳	
IVR	30 例	血管系	10 例以上
		非血管系	5 例以上
放射線治療	30 例	脳・頭頸部	4 例以上
		胸部・乳腺	4 例以上
		腹部・骨盤	4 例以上
		骨軟部	4 例以上

<補足>

- ・ 実地診療によって経験目標を達成できない場合は、日本専門医機構が認める講習会（ハンズオン・トレーニング等）の活用等によって、不足する研修を補完します。

7. 研修方略

整備基準 44,45

放射線科専門医の臨床能力として、専門的知識・技能に加え、医師としての基本的診療能力も習得できるよう指導します。専攻医は、「専攻医研修マニュアル」に基づき、「放射線科領域専攻医研修手帳」を携帯し研修を実践することになります。専門研修指導医は、「指導医マニュアル」をもとに指導します。

1) 専門研修プログラム制による研修

整備基準 16,25,30

研修はプログラム制で実施し、研修期間は3年間以上です。専門研修プログラムにより研修を開始した日をもって研修開始日とします。

専門研修の質を保障し均一化をはかるため、必ず専門研修施設群の複数の施設をローテート研修します。専門研修期間のうち少なくとも1年間以上は日本医学放射線学会認定の総合修練機関で専門研修を行うことを必須とします。また、放射線科専門研修プログラム新整備基準では、基幹施設での研修は6カ月以上とし、連携施設での研修は3ヵ月未満としないようにすることが定められていますが、本プログラムでは各施設1年単位でのローテートを基本としています。専門研修関連施設での研修は、非常勤医師として専門研修基幹施設の管理・責任の下に行われ、常勤医師としてのローテート研修は行いません。

(1) 専門研修1年目

- ・ 知識：放射線科診療に必要な基礎的知識・病態を習得する。
- ・ 技能：研修指導医の管理のもと、診断や治療に必要な画像検査が実施可能な技能を習得する。
- ・ 態度：医師として、医の倫理や医療安全に基づいた適切な態度と習慣（基本的診療能力）を身につける。

(2) 専門研修2年目・3年目

- ・ 知識：放射線科専門医レベルの放射線診断、IVR、放射線治療の知識を2年間で習得する。
- ・ 技能：放射線科専門医レベルの疾患に対し、専門研修指導医の管理のもと、放射線診断、IVR、放射線治療が実施可能な技能を身につけ、必要に応じ専門研修指導医の援助を求める判断力を2年間で身につける。

知識、技能は研修コースの相違で段階的に習得できない場合があります、3年間で確実に習得することを目指します。また、年次ごとの目標は一つの目安であり、研修環境や進捗状況により柔軟に対応します。

専門性を持ちつつ臨床研究活動に携わり、その成果を国内外の学会で発表し、論文を作成します。さらに後輩の指導にもあたり、研究・教育が可能な総合力を培います。また、日本医学放射線学会認定教育講習会を、必要回数、受講します。

3年目までに習得した知識、技術をさらに深化・確実なものとし、放射線科専門医として診療できるよう専門医試験に臨むとともに、サブスペシャリティ領域専門医（放射線診断専門医または放射線治療専門医）の方向性を決定します。

2) 研修コース

整備基準 30

研修には以下の3コースが設定されています。どのコースに進むかは希望を聞いた上、相談で決定します。

コース	専攻医 1 年目	専攻医 2 年目	専攻医 3 年目
A	専門研修基幹施設	専門研修基幹施設	専門研修連携施設
B	専門研修基幹施設	専門研修連携施設	専門研修連携施設
C	専門研修基幹施設 (大学院・臨床)	専門研修連携施設 (大学院・臨床)	専門研修基幹施設 (大学院・臨床)

- コース A：専門研修基幹施設を中心に研修する基本的なコースです。基礎・臨床研究を体験できる体制が整っている基幹施設ではリサーチマインドも滋養します。
- コース B：専門研修連携施設を中心に研修するコースです。専門研修基幹施設での1年間の基本研修修了後、専門研修連携施設で臨床医としての実地研修に重点をおきます。専門研修連携施設は原則として1年ごと異動しますが、諸事情により2年間同一施設で研修することもあります。
- コース C：専門医取得と博士号取得を同時に目指すコースです。大学院に進学し、専門研修基幹施設の岡山大学病院ならびに専門研修連携施設で、臨床現場での研修と臨床系研究および講義を両立しながら博士号取得をめざします。サブスペシャリティ領域の研修も、学位が取得できるまで同様の状況が持続します。

3) 研修方法

整備基準 13

専攻医は、専門研修施設群内の施設で専門研修指導医のもとで研修を行います。専門研修指導医は、専攻医が偏りなく到達（経験）目標を達成できるように、放射線科領域専門研修カリキュラムに基づいたレベルと内容で学習指導をします。

(1) 専門研修基幹施設：岡山大学病院放射線科

A. 放射線診断

- ・ X線単純撮影、X線造影検査、超音波検査、CT、MRI、核医学検査などの撮像法の意義、適応について十分理解した上で、臨床情報に基づいた適切な撮像法の指示を経験します。
- ・ 疾患および臨床状況に応じて必要とされる読影情報の提供過程を学習します。
- ・ hands-on-training として積極的に超音波検査を経験したり、血管造影の助手やIVR手技の助手を経験します。
- ・ 検査や治療手技のイメージトレーニングや施行後の詳細な記録を実践します。
- ・ 放射線科におけるカンファレンスおよび関連診療科との合同カンファレンス、あるいはカンサーボード等で、疾患の病態から診断ならびに治療までの過程を学習します。

<IVR患者の担当>

外 来

- ・ 診察医に陪席し、外来診察、診断確定に必要な検査、IVRの適応の判断とインフォームド・コンセント取得に至る過程を経験することができます。

病 棟

- ・ 病棟医長のもと指導医との診療チームを構成します。
- ・ 専攻医は指導医のもと担当患者の診察、IVR手技、IVR後の患者管理を習得することができます。
- ・ 病棟回診で受け持ち患者のプレゼンテーションを行い、評価を受けることができます。

B. 放射線治療

- ・ 指導医の下で、診察、診断、治療方針の決定、治療計画の作成、実際の治療、効果判定、有害事象の検討、治療後の経過観察などを経験します。
- ・ 症例について、放射線科におけるカンファレンスおよび関連診療科との合同カンファレンス、あるいはカンサーボード等で、疾患の病態から治療までの過程を学習します。

<放射線治療患者の担当>

外 来

- ・ 診察医に陪席し、外来診察、診断確定に必要な検査、放射線治療の適応とインフォームド・コンセント取得に至る過程を経験することができます。

病 棟

- ・ 病棟医長のもと指導医との診療チームが構成されています。
- ・ 専攻医は指導医のもと担当患者の診察、放射線治療計画、有害事象への対処を習得することができます。
- ・ 毎週の病棟回診で受け持ち患者のプレゼンテーションを行い、評価を受けることができます。

C. 臨床現場以外での研修

整備基準 12,14

- ・ 抄読会や勉強会に参加し、インターネットによる情報検索の方法を学習します。
- ・ 種々の画像検査、IVR、放射線治療計画をトレーニングするシミュレーション設備や教育ビデオなどを活用し研修の充実を図ることができます。
- ・ 日本医学放射線学会認定の学術集会で専門医資格の更新単位を取得可能な講習会等を聴講するとともに、標準的ならびに先進的な画像診断、IVR、放射線治療および最新の医学的知見について積極的に学習します。
- ・ 放射線科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加することができます。
- ・ 医師としての倫理性、社会性あるいは知識を獲得するため、臨床現場を離れて研修施設が主催する講習会や学会主催の教育講演を聴講することができます。
- ・ 年に2回以上筆頭演者として学会発表を行います。
- ・ 年に1編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とします。

➤ 大学院（臨床系）

- ・ 基本的に日中は大学病院にてフルタイムで研修し、午後5時以降、大学院講義出席、臨床研究、論文作成等を行うことができます。
- ・ 週1日は研究日として、研究および大学院講義を優先します。

<週間予定表（例）>

		月	火	水	木	金
第1週 診断 IVR	午前	ミニレクチャー US	IVR 術前カンファ CT, MRI	全体カンファ CT, MRI	症例検討 CT, MRI	IVR 術前カンファ CT, MRI
	午後	CT, MRI, 核医学 泌尿器、婦人科 カンファ	CT, MRI, 核医学 呼吸器カンファ	IVR 肝胆膵カンファ	CT, MRI, 核医学 肝胆膵カンファ	IVR
第2週	午前	ミニレクチャー CT, MRI	IVR 術前カンファ CT, MRI	全体カンファ 消化管透視	症例検討 CT, MRI	IVR 術前カンファ CT, MRI

診断 IVR	午後	CT, MRI, 核医学 泌尿器、婦人科 カンファ	CT, MRI, 核医学 呼吸器カンファ	CT, MRI, 核医学 肝胆膵カンファ	CT, MRI, 核医学 肝胆膵カンファ	IVR
第 3 週 治療	午前	ミニレクチャー 病棟診察, 外来	病棟診察 CT、MRI	病棟診察 CT、MRI	症例検討 病棟診察, 外来	病棟診察 CT、MRI
	午後	密封小線源治療 治療カンファ	放射線治療計画	CT、MRI 核医学	放射線治療計画	陽子線センター
第 4 週 診断 IVR	午前	ミニレクチャー CT, MRI	IVR 術前カンファ CT, MRI	全体カンファ CT, MRI	症例検討 CT, MRI	IVR 術前カンファ CT, MRI
	午後	CT, MRI, 核医学 泌尿器、婦人科 カンファ	CT, MRI, 核医学 呼吸器カンファ	CT, MRI, 核医学 肝胆膵カンファ	CT, MRI, 核医学 肝胆膵カンファ	PET センター

(2) 専門研修連携施設

整備基準 11,28,29

A. 岡山医療センター放射線科

- ・ 専門研修指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の外傷・急性疾患・頻度の高い悪性腫瘍などの画像診断、IVR、ならびに放射線治療を習得することができます。
- ・ 岡山大学病院放射線科のカンファレンス、抄読会に週 1 回参加し学習することができます。
- ・ 必須の講習会を受講し、年に 2 回以上筆頭演者として学会発表を行うことができます。
- ・ 放射線科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加することができます。
- ・ 病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加することができます。
- ・ 地域の 1 次・2 次・3 次医療を担い、地域と連携して地域医療を支えることができます。また、連携施設で研修を積む他領域の専攻医や指導医と密に連携し、後方支援として貢献できる放射線診療を修得することもできます。

B. 岡山旭東病院放射線科

- ・ 専門研修指導医の下、脳神経運動器の専門病院の勤務医として、第一線の頭部外傷・整形領域の外傷、急性期脳疾患・頻度の高い脳神経、運動器の疾患、に加え FDG-PET/CT での悪性腫瘍、認知症などの画像診断を習得することができます。
- ・ PET/CT 1 台、SPECT/CT 1 台、サイクロトロンを有します。PET/CT は年間 1000 件程度の FDG-PET 検査を実施しており、豊富な症例があります。また脳神経、運動器の専門病院でもあり、3 テスラ MRI 3 台、1.5 テスラ MRI 1 台、64 列マルチスライス CT も有し、合計 2 万件以上の CT, MRI 検査も実施しています。

- ・ 院内学会、院内医局の勉強会、脳神経外科、神経内科、麻酔科、放射線科の合同抄読会に定期的に参加し学習することができます。
- ・ 必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行うことができます。
- ・ 放射線科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加することができます。
- ・ 病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加することができます。

C. 岡山済生会総合病院放射線科

- ・ 専門研修指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の外傷・急性疾患・頻度の高い悪性腫瘍などの画像診断、IVR、ならびに放射線治療を習得することができます。
- ・ 岡山大学病院放射線科のカンファ、抄読会に週1回参加し学習することができます。
- ・ 必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行うことができます。
- ・ 放射線科関連の学会、学術講習会、セミナーに積極的に参加することができます。
- ・ 病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加することができます。

D. 岡山市立市民病院放射線科

- ・ 専門研修指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の外傷・急性疾患・頻度の高い悪性腫瘍などの画像診断、IVRを習得することができます。
- ・ 岡山大学病院とは近距離にあり、必要に応じて大学放射線科のIVR症例やカンファレンス、抄読会に参加し学習することができます。
- ・ 必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行うことができます。
- ・ 放射線科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加することができます。
- ・ 病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加することができます。

E. 岡山赤十字病院放射線科

- ・ 専門研修指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の外傷・急性疾患・頻度の高い悪性腫瘍などの画像診断、IVR、ならびに放射線治療を習得することができます。
- ・ 放射線科におけるカンファレンスおよび関連診療科との合同カンファレンス、あるいはカンサーボード等で、疾患の病態から診断ならびに治療までの過程を学習することができます。

- ・ 必須の講習会を受講し、年に1回以上筆頭演者として学会発表を行うことができます。
- ・ 放射線科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加することができます。
- ・ 病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加することができます。

F. 岡山ろうさい病院放射線科

- ・ 専門研修指導医のもと画像診断、核医学、IVR、放射線治療の基本がマスターできるようにし、他の施設ではなかなか経験できない塵肺や石綿肺、中皮腫等の診断治療も経験してもらうことができます。
- ・ 週一回の放射線症例カンファレンス、月一回の放射線科の英語論文抄読会に参加できます。
- ・ 隔週の内科・外科・放射線科・病理カンファレンス、消化器癌カンサーボードに参加できます。
- ・ その他、院内、院外の様々な研修会に参加できます。

G. 川崎医科大学総合医療センター放射線科

- ・ 専門研修指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の外傷・急性疾患・頻度の高い悪性腫瘍などの画像診断、IVRを習得することができます。
- ・ 病院内でのカンファレンスに週4回程度、その他にも不定期のカンファレンス、CPCなどに参加し学習することができます。
- ・ 放射線学会で必須とされる講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会・研究会にて発表を行うことができます。
- ・ 放射線科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加することができます。
- ・ 病院が実施する医療安全、医療倫理、医療制度、チーム医療などに関する各種講習会に定期的に参加することができます。

H. 倉敷成人病センター放射線科、放射線治療科

- ・ 専門研修指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、急性疾患・頻度の高い悪性腫瘍などの画像診断、IVR(UAEが比較的多い)を習得することができます。特に産婦人科・泌尿器科症例の読影を多数経験できます。
- ・ 岡山大学病院放射線科のカンファレンス、抄読会に週1回参加し学習することができます。
- ・ 院内の産婦人科・泌尿器科・消化器外科との定例カンファレンスに参加できます。

- ・ 必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行うことができます。
- ・ 放射線関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加することができます。
- ・ 病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加することができます。

I. 津山中央病院放射線科

- ・ 専門研修指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の外傷・急性疾患・頻度の高い悪性腫瘍などの画像診断、IVR、ならびに放射線治療を習得することができます。
- ・ 特に、平成28年春西日本で最初の陽子線治療が稼働開始となり、診断及び最新の治療について研鑽ができることが強みであります。
- ・ 岡山大学病院放射線科のカンファレンス、抄読会に週1回参加し学習することができます。
- ・ 必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行うことができます。
- ・ 放射線科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加することができます。
- ・ 病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加することができます。

J. 福山医療センター放射線診断科、放射線治療科

- ・ 幅広い診療科（含む地域周産期母子医療センター・小児外科）を擁する地域の中核的拠点病院の勤務医として、専門研修指導医の下、幅広い領域における疾患の画像診断、IVR、ならびに放射線治療を習得することができます。
- ・ 必須の講習会を受講し、筆頭演者としての学会発表を行うことができます。
- ・ 放射線科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加することができます。
- ・ 他科との合同カンファレンスが週3回あり、ディスカッションを通じて診断、治療範囲、適応等について研鑽をつむことができます。
- ・ 病院が実施する各種講習会や地域のカンファレンスに定期的に参加することができます。

K. 公立学校共済組合中国中央病院放射線科

- ・ 専門研修指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の外傷・急性疾患・頻度の高い悪性腫瘍などの画像診断、IVR、ならびに放射線治療を習得することができます。
- ・ 岡山大学病院放射線科のカンファレンス、抄読会に参加し学習することができます。

- ・ 必須の講習会を受講し、筆頭演者として学会発表を行うことができます。
- ・ 放射線科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加することができます。
- ・ 病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加することができます。
- ・ 病院内の他科や他科との合同のカンファレンスに参加することができます。

L. 呉共済病院放射線科

- ・ 専門研修指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の外傷・急性疾患・頻度の高い悪性腫瘍などの画像診断、IVR、ならびに放射線治療を習得することができます。
- ・ 病院の方針として、良質な画像および的確な診断・治療が求められ、画像診断装置は最新、ハイエンド機器に比較的整備、更新されています。
- ・ 放射線部内のカンファレンス、他科とのカンファレンスに定期的に参加し学習することができます。
- ・ 放射線科関連の様々な学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加することができます。

M. 岩国医療センター放射線科

- ・ 専門研修指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の外傷・急性疾患・頻度の高い悪性腫瘍などの画像診断、IVR、ならびに放射線治療を習得することができます。
- ・ 院内の肝胆膵・呼吸器・放射線科関連のカンファレンスに、各々週1回参加し、学習することができます。
- ・ 必須の講習会を受講し、年に1回以上筆頭演者として学会発表を行うことができます。
- ・ 放射線科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加することができます。
- ・ 病院が実施する講演会や医療安全講習会に定期的に参加することができます。

N. 姫路聖マリア病院放射線科

- ・ 専門研修指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の急性疾患・頻度の高い悪性腫瘍などの画像診断、IVRを習得することができます。
- ・ 放射線科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加することができます。
- ・ 岡山や姫路～関西地区の画像関連カンファレンスにも積極的に参加できます。
- ・ 病院が実施する医療安全講習会・学術集会・院内勉強会に定期的に参加することができます。

- ・カンファレンスに週 3 回参加し、他診療科と画像のディスカッションを行う事ができるよう、研鑽することができます。
- ・必須の講習会を受講し、筆頭演者として学会発表を行うことができます。

O. 香川県立中央病院放射線科

- ・専門研修指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の外傷・急性疾患・頻度の高い悪性腫瘍などの画像診断、IVR、ならびに放射線治療を習得することができます。
- ・必須の講習会を受講し、年に 2 回以上筆頭演者として学会発表を行うことができます。
- ・放射線科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加することができます。
- ・病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加することができます。

P. 三豊総合病院放射線診断・IVR 科、放射線治療科

- ・専門研修指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の外傷・急性疾患・悪性腫瘍などの画像診断、IVR、ならびに放射線治療を習得することができます。
- ・胃透視、注腸、超音波検査なども他科と連携して習得することができます。
- ・必須の講習会を受講し年に 1 回以上筆頭演者として学会発表をしてもらいます。
- ・放射線科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加することができます。
- ・病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加することができます。
- ・院内の内科系 外科系の多くのカンファレンスに参加することができます。

Q. 放射線第一病院放射線科

- ・専門研修指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、急性疾患・頻度の高い悪性腫瘍などの画像診断(CT、MRI、X 線単純写真、X 線造影検査)、IVR を習得することができます。
- ・必須の講習会を受講し、筆頭演者として学会発表を行うことができます。
- ・放射線科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加することができます。
- ・病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加することができます。

R. 住友別子病院放射線 IVR 科、放射線診断科

- ・複数の専門研修指導医の下、フラッグシップの画像診断装置(320 列 X 線 CT・3 TMRI・TOF 搭載 PET-CT・コーンビーム CT 搭載 DSA・画像フュージョン機

能搭載超音波検査装置・マンモトーム搭載マンモグラフィなど)を用いた高画質で最先端の画像診断が可能です。

- ・ 研修できる疾患群に関しては、地域中核病院（救急指定病院・地域がん診療連携拠点病院）であるため、救急に代表される急性疾患から悪性腫瘍などの慢性疾患まで幅広い症例の画像診断を数多く経験できます。
- ・ また、画像診断ばかりでなく IVR 専門医を 2 名擁し地域で唯一 IVR 科を標榜しており積極的に治療にも関与しています。放射線治療に関しても、元放射線腫瘍学会専門医が常勤し週一回は放射線治療専門医の診療応援を受けているため放射線治療とリンクした腫瘍画像診断学を学ぶことが可能です。
- ・ カンファレンスに関しては、放射線科医が主導する外科系の術前カンファレンスや内科系の消化器カンファレンスを週一回で開催しており、画像診断レポートを検証できる環境は整っています。この検証作業を通して各診療科から信頼を得られる放射線科医の育成を目指しています。
- ・ 講習会の受講や学会発表に関しては、診療業務とともに重要な院内業務と捉えられており積極的に支援しています。市中病院ではありますが、国際学会の出席に関しても補助を行っています。

S. 高知医療センター放射線科・放射線療法科

- ・ 専門研修指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の外傷・急性疾患・頻度の高い悪性腫瘍などの画像診断、IVR、ならびに放射線治療を習得することができます。
- ・ 放射線科カンファレンス、肝胆膵カンファレンス、IVR 抄読会に週 1 回参加することができます。
- ・ 院内 CPC に月 1 回参加することができます。
- ・ 医療安全研修会、感染対策研修会、倫理研修会に参加することが出来ます。
- ・ 放射線科関連の学会、学術講習会、セミナー、必須の講演会に参加することが出来ます。
- ・ 学会発表が出来ます。

T. 姫路赤十字病院放射線科

- ・ 32 の診療科と総合周産期医療センター、脳・心臓血管センターをもつ地域医療の中核を担う総合病院の勤務医として、専門研修指導医の下、幅広い領域における疾患の画像診断、IVR、ならびに放射線治療を習得することができます。
- ・ 岡山大学病院放射線科のカンファレンスに定期的に参加し学習することができます。

- ・ 必須の講習会を受講し、年に 3 回以上筆頭演者として学会発表を行うことができます。
- ・ 放射線科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加することができます。
- ・ 病院が実施する医療安全講習会などの様々な講習会や地域のカンファレンスに定期的に参加することができます。

U. 福山市民病院放射線診断・IVR 科、放射線治療科

- ・ 専門研修指導医の下、地域医療を担う第一線の中核病院の勤務医として、救急・急性疾患、頻度の高い悪性腫瘍などの画像診断、IVR、ならびに放射線治療を習得することができます。
- ・ 必須の講習会を受講し、年に 2 回以上筆頭演者として学会発表を行うことができます。
- ・ カンファレンスに週 4 回参加し、他科医師とのディスカッションを通じて診断能力の研鑽を行うことができます。
- ・ 放射線科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加することができます。
- ・ 病院が実施する各種講習会に定期的に参加することができます。

V. 近森病院放射線科

- ・ 専門研修指導医の下、種々の画像診断・IVR を習得することができます。
- ・ 地域の中核病院・救命救急センター・地域医療支援病院として、1 次から 3 次までの救急診療を行い、年間救急車 6000 台以上を受け入れています。このため、common disease から重症度の高い急性病変や外傷など 幅広い疾患が経験できます。
- ・ 放射線科医主体で超音波検査を行っており、腹部・血管系超音波を習得することができます。
- ・ IVR は血管系・非血管系ともバリエーションに富んでおり、色々な症例を経験できます。
- ・ 各診療科とのカンファレンスや、CPC（月 1 回）に参加できます。
- ・ 学会・研究会の発表（年 5 回まで）、聴講（年 1 回まで）が可能です。
- ・ 病院が定期的に実施する医療安全講習会、感染対策セミナーに参加できます。
- ・ 診療科間の垣根が低く、先進的な多職種連携を行っており、仕事のしやすい環境です。

8. 研修実績の記録

整備基準 41, 44, 46

専門研修では専攻医の研修実績および評価を以下のように記録します。

- 1) 専攻医は、専門研修開始時に専攻医登録を基本領域学会である日本医学放射線学会に届け出、日本専門医機構から承認を受けます。
- 2) 専攻医は、「研修手帳」に以下を記録します。
 - 達成度評価：到達目標の自己評価を記録します。
 - A. 専門知識
 - B. 専門技能
 - C. 医師としての倫理性・社会性などの事項
 - D. 学問的姿勢
 - 研修実績〔経験症例記録〕（画像診断、IVR、放射線治療）
 - A. 画像診断として経験すべき疾患・病態等
 - B. 経験すべき検査・読影等
 - C. 経験すべき治療等
 - 年次別総合評価（中間・年次末）：研修に対する自己評価、専門研修指導医に対する評価、専門研修施設に対する評価、専門研修プログラムに対する評価を記録します。
 - 講習会受講記録（医療安全、感染対策、医療倫理、専門医共通講習、日本医学放射線学会主催放射線科領域講習等）
 - 学術業績記録（学会発表記録、論文発表記録）
 - カンファレンスや抄読会等の出席記録
 - その他の記録
 - ・ 研修目標を補完するために受講した講習会や e-learning の受講証明書などのコピーを添付します。
- 3) 専攻医は、研修実績データを Excel ベース（専攻医研修実績記録フォーマット）で蓄積し、提出を求められた際に患者 ID が連結可能なファイルとして随時対応できるように管理します。
 - ・ 研修実績データ等の管理・蓄積では、個人情報保護に必要な配慮（例えば、連結可能匿名化、パスワード設定、オフラインコンピュータでの管理等）を行います。
- 4) 専門研修施設の専門研修指導医は、専攻医の研修手帳にて、達成度評価および年次別総合評価の指導者評価、研修実績等の確認・評価を記録します。

- 5) 3年間の専攻医の研修実績と評価を記録した研修手帳のコピーおよび講習会・e-learningの受講証明書などのコピーを、専門研修基幹施設に設置した専門研修プログラム管理委員会が最低5年間これを管理・蓄積します。
- 6) 専門研修施設には、日本医学放射線学会が研修記録などの内容について、無作為抽出による実地調査などに対応するために、随時監査できるシステムを構築することが求められます（例：レポーティングシステムによる読影症例の管理、治療RISによる放射線治療症例の管理など）。
- 7) 日本医学放射線学会は、専攻医の専門研修に関わる情報を、求めに応じて日本専門医機構に提供します。

9. 研修の評価

整備基準 17～22, 41

専門研修指導医が達成度評価を適宜行い、専門研修プログラム管理委員会が総括的评价を行い、専門研修プログラム統括責任者が修了評価を行います。

1) 達成度評価

(1) フィードバックの方法とシステム

整備基準 17,49,50

- A. 専攻医は、到達目標の達成度について、「研修手帳」を用いて最初に自己評価します。
- B. 専門研修施設の専門研修指導医は、専攻医の研修内容の改善を目的として、研修中の不足部分を口頭あるいは実技で明らかにし、「研修手帳」を用いて達成度評価を適宜行います。
 - ・ 専攻医は、研修実績を1回/月程度の回数で、専門研修指導医の評価とその確認の署名をもらうことになります。
- C. 専攻医は、年度の間と年度修了直後に年次別総合評価を専門研修プログラム管理委員会に報告します。
 - ・ 専門研修指導医および指導管理責任者は、専攻医の評価を年次別総合評価票に記載して、専攻医にフィードバックします。また、看護師などに多職種評価を依頼します。
 - ・ 専攻医は、研修に対する自己評価、専門研修指導医に対する評価、専門研修施設に対する評価、専門研修プログラムに対する評価を記録して、年次別報告票と研修記録簿を専門研修プログラム管理委員会に提出します。

D. 専門研修プログラム統括責任者は、専門研修プログラム管理委員会を開催し、提出された専攻医からの報告票を検討し、次年度の研修内容、研修指導、研修環境、ならびに専門研修プログラムの改善に反映させます。

- ・ 専門研修プログラム統括責任者は、専攻医の報告内容を匿名化して研修プログラム管理委員会に提出します。
- ・ 適切な改善が得られないときは、専攻医は放射線科領域研修委員会に評価内容を直接提示することも可能です。

(2) 指導医層のフィードバック法の学習 (Faculty Development; FD)

整備基準 18,36

専門研修指導医は、日本医学放射線学会が認定する「専門研修指導者講習会」、FDなどの機会にフィードバック法を学び、よりよい専門研修プログラムの作成を目指します。なお、専門研修指導医は、資格継続のため、日本専門医機構または日本医学放射線学会が主催する指導者講習会の参加が義務づけられています。

2) 総括的評価

(1) 評価項目・基準と時期

整備基準 19

専門研修プログラム管理委員会は、専攻医の専門研修が満了する第3年度の3月に、到達目標達成度評価、経験症例記録ならびにその他の研修記録・業績目録から専門的知識・技能・態度について総合評価します。

(2) 評価の責任者

整備基準 20

年度毎の年次別総合評価は、専門研修施設の専門研修指導責任者が行い、専門研修プログラム統括責任者が確認します。

3年間の専門研修修了時の総括的総合評価は、専門研修プログラム統括責任者が行います。

(3) 修了判定のプロセス

整備基準 21,53

専門研修修了の最終判定は、専門研修プログラム統括責任者および専門研修プログラム連携施設担当者等で構成される専門研修プログラム管理委員会にて、3年間の専門研修が満了する3月に、研修出席日数・プログラムの達成状況などから行われます。

専門研修プログラム統括責任者は、専門研修修了時に研修到達目標のすべてが達成されていることを確認し、総括的综合評価を記載した専門研修修了証明書を専攻医に発行し、その写しを日本専門医機構放射線科領域専門医委員会に提出します。

修了判定に至らなかった専攻医に対しては、年限を延長して研修を行います。

<修了要件>

- ・ 放射線科領域専門研修カリキュラムの一般目標、到達（経験）目標を修得または経験した者
- ・ 必要な研修期間をみたすこと
- ・ 認定された研修プログラム（研修施設、研修指導医）のもとで定められた目標を達成すること
- ・ 必要な学術業績・講習会受講記録を提出すること
- ・ 専門研修プログラム管理委員会での最終審査に合格すること

(4) 多職種評価

整備基準 22

医師としての倫理性、社会性の評価判定には、他職種（診療放射線技師、医学物理士、看護師、事務職員など）の医療スタッフなど第三者の意見も達成度評価に取り入れ、専門研修プログラム統括責任者が修了判定にフィードバックします。

10. 研修の休止・中断、異動

整備基準 33

放射線科専門研修中に特別な事情が生じた場合には、原則として以下に示す対応を取ります。

- (1) 出産に伴う 6 ヶ月以内の休暇は、1 回までは研修期間にカウントできます。ただし、出産を証明する書類の添付が必要です。
- (2) 疾病での休暇は、6 ヶ月まで研修期間にカウントできます。ただし、診断書の添付が必要です。
- (3) 基幹施設、連携施設および指導医が常勤する関連施設における短時間雇用形態（非常勤）での研修は、6 ヶ月まで研修期間にカウントできます。8 時間×100 日=800 時間をもって 6 ヶ月間として按分計算を行うことにより、研修実績に加算されます。ただし、週 30 時間以上の短時間雇用形態（非常勤）での研修は、上記の按分計算をする必要はなく、その期間を研修期間にカウントできますが上限は 6 ヶ月です。

- (4) 社会人大学院のように、放射線関連の臨床研修が可能な大学院の場合は、研修期間としてカウントできます。
- (5) 留学期間、並びに診療業務のない大学院の期間は、研修期間にカウントできません。
- (6) 専門研修プログラムを移動することは、移動前・後専門研修プログラム統括責任者の承認および放射線科領域研修委員会の承認および機構の承認を必要とします。

11. 労働環境、労働安全、勤務条件

整備基準 40

専門研修プログラム統括責任者および指導管理責任者は、専攻医の適切な労働環境、労働安全、勤務条件の整備と管理を担い、専攻医のメンタルヘルスに配慮します。

勤務時間、当直、給与、休日は労働基準法に準じて、専門研修基幹施設および各専門研修連携施設の施設規定に従います。

2021 年 4 月 23 日

岡山大学病院

放射線科領域専門研修プログラム統括責任者

平木 隆夫